



令和7年6月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

## 令和7年テングサ作柄予測

令和7年漁期のテングサ作柄調査を伊豆地域の10地区29か所で、3月上旬～5月下旬に実施しました。調査では目視による観察と1m<sup>2</sup>の範囲のテングサを採取して総重量と平均藻長を把握しました。

調査の結果、稲取地区、谷津地区では着生量が増加した漁場が多く見られた一方で、それ以外の地区では着生量が減少した漁場が多く確認されました。そのため、伊豆地域全体としては、「減少」と予測されました。

減少の要因としては黒潮大蛇行、漁業利用低下による漁場の荒廃（雑海藻の増加）等の影響が考えられます。



↑ 枠取りによるテングサ調査の様子

解説：本県は全国有数のテングサ生産県で、令和6年の生産量は千葉県(45トン)に次いで全国2位(44トン)です。県内では伊豆半島のみで生産され、主な産地は西伊豆町仁科、伊豆市土肥です。

### 親子で漁業を学ぶイベント開催

5月11日に河津町の下河津漁港（谷津）において、NPO法人あおぞらビレッジ主催のイベント「もっと知りたい！漁師さんのお仕事＆海のこと」が開催されました。イベントには下田、河津、東伊豆の親子30名以上が参加し、刺網からイセエビを外す体験や定置網の水揚げ見学が行われました。また、会場職員による漁業の現状や深刻化する磯焼けについての簡単な講義も行いました。今後もこうしたイベントが開催され、子供たちが地元の海や漁業に対して関心や愛着を持ってくれることを期待します。



(左) イセエビの外し方のレクチャーを受ける参加者  
(右) 会場職員による漁業等に関する講義

### 高校生が地元の水産業について学ぶ

5月23日、下田高校の生徒が研修に訪れました。市の水産業をより身近に感じてもらうと、漁業の歴史や当場の研究内容に関する講義の後、実物を見る・触る体験として、水揚量日本一を誇るキンメダイの耳石を用いた年齢推定や、磯焼け対策活動で採捕される食害生物（ブダイ、ムラサキウニ）\*の観察等を行いました。

高校卒業後、生徒は地元を離れることが多いと聞いています。他の地域へ行っても、地元の水産業やそれに携わる人々のことを覚えていてもらえたらと思います。



(左) キンメダイ耳石を観察し年齢を数える様子  
(右) 展示室で下田の磯焼けについて学ぶ様子

\*伊豆地域では海水温の上昇や海藻を食べる生き物の食害により大規模な磯焼けが起っています。漁業者は、対策として食害生物の採捕を行っており、当場は食害生物を水産業で利活用するための取組を支援しています。

**6月の予定** ● 潜水調査（田牛、稲取、菖蒲沢） ● キンメダイ親魚採捕調査 ● カジメ移殖の実施 ● 下田認定こども園来場見学（11日） ● 下田保育所来場見学（16日）

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：[suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp) ホームページ：<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。